

平成 30 年度第 1 回江南市地域公共交通会議 会議録

- 日 時 平成 30 年 7 月 25 日 (水) 午後 2 時 00 分～午後 3 時 50 分
- 場 所 市役所 3 階 第 2 委員会室
- 委 員 出席 20 名 (磯部 友彦、平野 富一、榊原 仁 (代理 児玉 朋孝)、吉岡 実 (代理 平塚 康男)、森 一浩 (代理 小島 久恵)、小林 裕之 (代理 古田 寛)、小川 健司、西部 茂夫、杉本 忠久 (代理 二輪 昭宏)、鈴木 浩示、八森 誠司、大矢 玄康 (代理 佐々木 信祐)、小塚 昌宏、朱宮 光輝、岩崎 義宏 (代理 稲垣 敬)、石川 友紀、岩田 富実雄、倉橋 義一、佐藤 和弥、野田 憲一)
- 傍聴者数 5 人
- 資料
 - 資料 1 - 1 : 平成 29 年度地域公共交通に関する自己評価概要 (中部様式)
 - 資料 1 - 2 : 政策評価・事業評価の評価基準
 - 資料 2 : 平成 29 年度江南市地域公共交通 (いこまい C A R ・バス) の利用状況
 - 資料 3 : いこまい C A R (予約便) の立寄り利用について
 - 参考資料 : 江南市における地域公共交通の基本的な考え方
第三者評価委員会資料 (中部様式) 作成の手引き
江南市地域公共交通会議設置要綱
名鉄バス江南・病院線、江南団地線チラシ、ポケット版時刻表、路線図
いこまい C A R (予約便) ご利用案内
江南市地域公共交通基礎調査結果報告書 (未配付の公募委員のみ)

開会（午後 2 時 00 分）

○会長あいさつ

会 長 会長を務めております、中部大学の磯部でございます。

暑さで大変なんですけれども、その前には大雨で特に西日本の交通機関がズタズタになっておりまして、大変だなということでございます。私は、交通というのは人と物を運ぶだけじゃなくて、情報も運ぶし、人の思いやりも運ぶものだと、そうやって思っております、それが途切れるということは非常に残念なことでありまして、一刻も早く復旧になってほしいなと思っております。で、そういうことを考えますと交通というのはネットワークといいますかね、網の目で構成されているのが当たり前の姿になっておりますので、その一部でも切れると大変なことになるという、こういった災害の時に特にそうなんですけれども、全部大事にやっていかなければいけないなと思っておりますので、この地域でも普段からいろいろ考えていって、もしものことがあっちゃいけないんですけども、やっぱり普段から考えているともしもの時も対応が素早くいけるかなと思っておりますので、考えながら議論していきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○協議事項

平成 29 年度地域公共交通に関する自己評価について（資料 1・2）

会 長 それでは、次第に従って進めたいと思っております。議題として、協議事項が 2 つございます。まず 1 つ目の協議事項「平成 29 年度地域公共交通に関する自己評価について」内容について事務局より説明をお願いします。

事務局 資料 1・2 に基づき説明。

会 長 ありがとうございます。もう一度確認しますけれども、この自己評価はあくまでも市が単独で自分達がやってきたことに対しての評価をしたということでございます。「先程、国からの補助金をいただいている場合は、これを国に提出する」等の話がありますけれども、そういうことは今、補助金をいただいていないのでやる必要はないんですけども、せっかくこういう自己評価という 1 つのルールがあるのでそれに倣って自分達のまちのことを自分達で知ろうという、そういった試みでやってみたということでございますので何かご意見ございましたらお受けしたいと思っておりますがいかがでしょうか。ではお願いします。

委 員 今、いろいろ説明していただいたんですけど、特に 6 ページの評価の優、優、優、良とか、評価が出ていますけれども、これは補助金、利用者維持で優ということになってはいますが、特に私は一番、前から関心があるのが路線バスのことですけれども、この優、優、優、良は、なんか手前味噌で自己満足しているような感じの優というふうには受け止めかねないんですけど、もう少し何か具体的な数字を基にして、これ以上は優、これ以下は良とかね、そういう基準を設けてもっとはっきり優、良の判断をした方がいいかなと、これだけでは、なんか本当に抽象的な表現で、ちょっと掴みに

- くい点がありますけれど、その点どうですかね。
- 事務局** この評価につきましては、昨年度「地域公共交通の基本的な考え方」を策定する時に、どういったものにしようかと皆さんで考えていただいて、評価の基準というところが、数字で見せるのではなくて、前年度からの推移と、利用状況の内容を考察して評価をしていこうとさせていただいております。
- そういったことから、前年度からどれだけ変わったかというところをここでお示しさせていただくと、資料2の方を見ていただきますと、9ページですね、名鉄バスの路線の利用状況で、利用者数と1便当たりの利用者数路線別の部分も載せさせていただいております。また、10ページですね、こちら、利用者1人当たりの市負担額、路線別の補助額というもので、この評価の基となったものも掲載しています。あと、以前から委員が公共交通会議や検討部会の方でおっしゃってみえましたので、区間別の状況というもの、一旦補助金額で江南市が推計しているものなのですが、路線別の区間の補助金額の推計というものを出示して、例えば、江南・病院線、江南団地線で区間ごとにこれくらいの補助金だったのではないだろうかという推計したものを出しております。こういったところから、区間別の推移も見ながら、今回、考察として分析しておりますので、ご理解いただければと思います。
- 委員** これからも、ずっと続けていくにあたりまして、やっぱりそういう評価はつけていかなければいかんと思いますけれど、やはり、前年はどれだけプラス、アップしたら優とかね、前年どれだけマイナスしたら不可とか良とか、そういう具体的な数字を基に、これは基本になっているのが何か全然分からないですね、この優は。
- いくつを基にして優をつけたとかね、そういう前年比でこれだけ補助金が少なくなっているからとか数字的な指標が見えてこないんですけど、これからもやっぱり、「来年度はまた今年度と同じようにこれだけ増えたから優にします」とか。それではちょっとなにか物足りないような気がするけど、やっぱり具体的なもの、基を持って示してこれから進んでいかなきゃいけないかなど、私個人では思っておりますけど、どうですか。
- 事務局** 今回の評価におきましては、内部でも話をしたところ、数値的などところを出すべきかどうかという話もありましたが、昨年度いろいろと検討したところで、指標の推移だけではなくて、1便当たりの利用率、経年推移等、利用の変動理由を考察することが今回の江南市の評価の特徴というように捉えております。
- 資料の1-2で評価の基準というものを皆様にご案内しておりますが、例えば事業評価のバスの維持確保ですと、この指標自体、減少傾向または維持を示しております、利用自体が増加傾向にあるものは優というように評価しております。
- 今回は単年度の評価になりますが、評価を重ねていく中で、複数年度にわたって大幅な減少があるもの等はだんだん評価が下がってまいりますので、そういったことを勘案しながら進めていけたらなと考えております。

会 長 私から補足というか提案しますと、恐らく資料の1-2で評価基準の内容があって、評価指標があるんですけども、実際、本当の意味での評価指標は1つじゃなくて複数あって、それをいろいろ勘案して今の優良可を作れると思うんですね。で、この資料の1を見ると、1つの指標だけ見て判断しているように見えてしまうんで、1つの指標だったら、厳密な数値があるんじゃないですか、その方が分かりやすいよねということだと思うんですね。だけど複数のものを使っているんで、それを組み合わせて見ていくということなので、その相互判断しているのこういう表現をしていると思うんですね。そうすると、相互判断するときのいろいろなもっと細かい項目がいっぱいあるんですね、さっきのご説明ですとね。そうすると、いわゆるチェックリスト方式っていうチェックの仕方があるんですよ。項目がいっぱいあって、いろいろなところでOKならチェックしていくような話ですね。そういうのも合わせて示していくことをやった方がいいのかなと。要するに、1つの指標だけで見るのは危険だとおっしゃるのは確かなんで、でも、複数あった場合、混乱しちゃうんで、ただその時には細かい指標の内容をチェックしていった全体的にどうだというようなやり方もありますので、ちょっとその辺を工夫してみるといいのかなと。とにかく複数の項目を扱うときの1つの方法論でありますので。

事務局 自己評価も今年から初めてのことで。本日そういったいろいろな意見をお聞きいたしまして、持ち帰り、今、チェックリストというような方式もお聞きしましたので、少し来年度に向けて検討したいと思います。よろしくをお願いします。

会 長 恐らく、この方向性をどういった方向性の指標で見ていくかと。いい状態を表現する指標も欲しいんですけども、「こうなったら危ないね」というのが前もって分かるような。「このまま放置しておく危ないね」ということが早めに分かるというのがいい指標なんだろうと思いますので。それを考えてどういった指標がいいのかと。ということはどういった状態が公共交通にとって悪い状態なのかと、そういうようなものを事前にキャッチできるような指標の作り方、それがいるのかなと思いますのでいろいろと工夫してみてください。かなり難しい問題ですけどね、これは。

要するに事が起きてからあの時曲がり角だったなと後から分かることが多いんですけどね。できれば早めにそれが分かればいいなという非常に難しい話なんですけどね。検討しましょう。よろしいでしょうか。ほかに何かありますでしょうか。

指標の作り方も今出ましたし、市の方で独自にいろいろと試みとしてやってみたんですけども、もうちょっとこういうようにしたらいいかな、というのがありますと、次の課題として役に立ちますがいかがでしょうか。私から運輸局さんに振っちゃいけないと思いながらも、せっかくだから中部様式を活用されているので、ちょっと何か感想なり、本当の意味の中部様式の立場から見た場合と厳密には比較はできないかもしれないんですけども、そういうことで何かコメントがいただければ嬉しいなと思います。いかがでしょうか。

委員 中部様式を使っていたということでありありがとうございますというのも変なんですけど、今回の場合、本来であれば、第三者評価委員会にかけていただいて、有識者の方のいろいろな意見を伺って、さらにそれを反映して、より良い地域公共交通にしていくということですが、今回、自主的にやられたということで、中部様式によらず、このように、今あるものを評価してより新しいものに繋げていくというのは非常に大切で、よく言われるのがPDCAというサイクルで、要はやるだけではなくて、それをいかどうか、これは会長がよくご存じだと思うのですが、それを評価して、課題を洗い出して、それをさらに改善していくということは重要になってきまして、先程会長からもありました、いわゆる危険な兆候ですね、それを事前につかんでそれを未然に対応するというのも重要ですし、今であれば、非常に経済的な部分もそうですが、運転手さんも少なく、より効率的なダイヤというのも求められている部分でもありますので、それを、例えば、利用頻度の少ない路線とかバス停を利用頻度の高い、もしくは利用頻度が見込めるようなところに振り分けるようなそういうことも考えていただく必要があるのかなと思いますので、先程の評価の方法もあるとは思いますが、基本的にはこういう評価していただいて、それに対する課題の洗い出しと改善というのを毎年でもいいですし、数年ごとでもいいですし、半年ごとでもいいですので、定期的に繰り返していくということが大事だと思いますので、今後とも続けていただくことが大事ではないかなと思いますのでよろしくお願いします。

会長 はい、ありがとうございました。
ほかに皆様から何かコメントをいただければ。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

一応これは協議事項という形で何を協議するかということになるんですけども、要は市の事務局としてはこういう自主的な活動をしたという話でもありますし、もう1つは皆様から注文を受けましたように、もうちょっと分かりやすくなどもあるし、さらにその課題が自ら出していった以上、その課題を解決するような次への取り組みですね、それを期待しているという話ですので、そういった面ではまずは「こういうことをやった」ということに対しての承認という形になると思いますけれども、もちろん中身をもっと見直さないといけないところもありますけれども、そういう意味の承認という形をお願いしたいなと思うんですけどもいかがでしょうか。ご承認いただけますでしょうか。

<異議なし>

会長 異議なしということで、今後、これに基づいて改善していくことをやっていこうということでございます。じゃあ承認という形でさせていただきたいと思います。課題は出ましたので、それをクリアしていくことにしておきます。

いこまいCAR（予約便）の立寄り利用について（資料3）

会 長 続きまして、2つ目の議題が「いこまいCAR（予約便）の立寄り利用について」というのでありますので、事務局より説明をお願いいたします。

事務局 資料3に基づき説明。

会 長 議論に入る前に私から1つ確認です。今日、これが議題に上がってますけど、今日で結論付けるわけじゃないですね。今日はいろいろ意見交換をするというのが中心でありますので、何らかの方向性を見るだけであって結論じゃないですね。そういうことですので、難しいのが出ていきなり結論というのは確かに難しいので、いろいろなケースを想定していただいたので、いこまいCARというのは通常のタクシーのメーターを倒して行くという、そういうシステムで動いている以上、1つ、考えられるパターンだということでもありますので、まさにいこまいCARの特性を生かした中で出てくるものでありますので、じゃあこれをどうやって考えていったらいいのかなということだと思っておりますので、何かいろいろなご意見いただけたらなと思っております。いかがでしょうか。

委 員 いこまいCARなんですけれども、とても便利なんですよね。高齢者教室がありますけれども、前の日に電話を入れなきゃ頼めないというようなことを聞いているんですけれども、当日ではいかんわけですか。

会 長 では、もう一度、最後に資料がついてありますので、予約の仕方の話、これをもう一度説明しておいた方が今の話がより分かるかなと思っておりますので、少しいこまいCAR（予約便）の利用の仕方についての資料が皆さんのところにあると思っておりますので、これで説明していただければと思っております。これについてはもちろん、今おっしゃったメリット、デメリットというものがありますからそれも少し感じているところを事務局からお話ししていただければと思っております。

事務局 参考資料（いこまいCAR（予約便）ご利用案内）に基づき説明。

会 長 よろしいでしょうか。今のお答えですと、なんで前日までかということ、タクシーの車両と運転手の手配を前の日にやっておきたいということ、一番大きな話はね。

ただど病院の帰りとかね、そういうのは前もって、病院に行って帰ってくるよと、ただど帰る時間が分からないからその日に確認できたときに再度連絡するという、そこまではできるようになっている。そこなんです、いろいろと苦労してここまでシステムを作り上げてきたというところがあるんですけれども、

委 員 老人会で高齢者ですので、やはり前もって予約しておくのが当然だと思いますけど、例えば、当日に予約ができると、今、運転手さんがみえないとか言っておりましたが、そのところは何とかなるんじゃないかなと、今、体育館が工事をやっております。だから行事ごとは全部堤防（市北部）に持っていきます。そうすると、やはりいこまいCARを使います。そのため、いこまいCARを使うんですけれども、前もって申し込んでいくと、当日向こうから帰るのに帰れないということもありますので、よく分かる

んですよ、それはね、けど私は老人会の立場として意見を言っているだけです、市の方針もよく分かっておりますので、そのところを考えてくれとはいいませんが頭の隅のところに置いといていただくとありがたいなと思っております。

会 長 予約の方法の上手いやり方というのを一緒になってやっていくんでしょうね、全く予定がなく急に出てくるものと、ある程度予定があるんだけど細かいのは決まってないというようなものもあるかなと思いますのでね、その辺も含めてどこまでできるかということでしょうね。ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

委 員 現状は立寄りをやってみえないということなんですが、現実問題いろいろなご利用がある中で、やはりどこかに寄っていただきたいというのが出てきた場合は、それは臨機応変には対応せずに全て却下されているということですか。

会 長 現状ですね。現状はどうなっていますかということですけど。

事務局 現状はおっしゃる通り、前日までに予約を取っていただくというようにお願いしております。なので、当日急に、ちょっとコンビニ寄りたいたいだけというようにおっしゃられても、そこは予約のとおり運行していただくようにお願いしています。

会 長 ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。じゃあお願いします。
委 員 送迎料金の考え方をお聞きしたいんですが、1つ目にコンビニに寄った時に一旦降りますよね、そこでメーターを切っていただいて、買い物して帰ってくると。お迎えはされてないもんですから、お迎え料金が発生するのは変かなと一瞬思ったんですが、多分お迎え料金がいらぬのは、駅だとか病院だとかそういうタクシーの発着所といいますか、そういうところがあるところだけはお迎え料金が発生しないという考え方ではないかなと思うんですが。例えば、いこまいCARだけを、そういう立寄りをした場合はお迎え料金を取らないということは、これはタクシー会社さんにお問い合わせをしたらいいのか、運輸局さんにお問い合わせをしたらいいのか、こういう特例というのは認められないものでしょうか。

会 長 お迎え料金の考え方ですよ。いろいろな解釈があるかなと思うんですけど。じゃあお願いします、委員さん。

委 員 私、実際に実務に当たっている者なんですが、まず前日予約ということに関してですが、当初、いこまいCARが発足された折には2日前だったんですよ、で、2日前はあまりにも忘れちゃう、ということで、「皆さん、意見言ってくださいよ、お客さんに、意見言ってくださいよ、市の方に言ってくださいよ、我々運転手ではどうしようもないんですよ」ということを一生懸命言っていたおかげで、3年、4年目くらいに市の方から譲歩していただいたと。前日にしましよと、タクシー会社の方の登録も、市の方との照らし合わせも前日ちょっとバタバタしますが、それは何とか努力しましよと。それとプラス同時にやっていただいたのが病院の帰りなんです、すごく混む病院がやっぱりあるんですよ、それですと4

時に行って6時ギリギリに終わったりする病院があるんで、帰りにいこまいCARが使えないということで、それも利用者さんが5時だとあまりにも早すぎると、夜の診察が4時からだと、1時間で終わるわけないということで、市の方が譲歩して、それも1時間伸ばしてくれたわけです。プラス、当初お迎え賃というのは市の負担だったんです、120円。その当時は110円で市が持ちましよう、要するに110円と700円で利用者さんは700円に対しての半額350円だけを負担するだけで110円は市が持ちましよう、それに関しては、例えば、厚生病院の帰り、先程言われたようにお迎え賃がいらなところは市が払わなくても済むという状況、家に呼ぶときは市がそれを払ってくれるという状況、それがご利用さんの負担にしてくださいという変更の経緯っていうのはちょっとよく分からないです。我々も、「ああ、そうなんだ」と思って従いましたが、一番大きい理由として、前日、前々日というのは当然当日でもいいと思うんですよ。極端な話、我々にとっては、冗談ですけど、タクシー利用は全部市が持つよ、予算がいっぱい余っているから、潤沢にあるから、うちの市はそれだけ余裕でまだまだ余ってますからどんどん皆さん使ってくださいよっていう状態ではないと思うんですよ、だからそのせめぎ合いだと思うんですよね、で、当日にしても当然いいんですけど、多分利用者さんはどうでしょう、40%から50%増えるんじゃないですか。電話かけ忘れていた方が全額払っていたのが半額になるってことを考えると、それに対して市が、いいよいよ、当日でもいいよと言っていたのであれば、それに越したことはないですけど、利用者立場で言えば。多分市政としては厳しいんじゃないかな、というのが要するに、お金、お財布と利用者さんのバランスだと思います。以上です。

会 長 迎車料金の変遷があるんですけど、迎車料金の変遷は事務局に確認してもいいですか。最初はどうか、途中でどう変えたか、今出ましたので。

事務局 今のお話ですが、平成19年10月にいこまいCAR（予約便）の試行運行を開始しておりまして、そこらいこまいCAR（予約便）に関しましては、平成21年の4月に利用方法を改正しております。今おっしゃられた利用の予約に関しまして、2日前から前日までとしており、運行期間を年末年始運休だったものを年中無休としています。また、運行時間に関しては、平日5時から、先程言われた通り、通院の往復予約者のみ復路の時間を午後6時までに変えて、その後、平成21年の10月1日から本格運行になっております。また、先程の利用料金の変更なんですけど、26年の4月1日に料金の改定を行いまして、タクシー運賃の2分の1で100円未満の切捨てだったものを、10円未満の切捨てになっております。あと、迎車料金を市負担から利用者の負担とさせていただいておりまして、最低利用料金が300円から350円、こちらはタクシーの改定だと思いますが、このようになってます。

最後、28年の1月に、タクシーの運賃の改定がありまして、最低利用料金が350円から300円、こちらはタクシーの運賃改定が700円から600円、

初乗運賃の改定がありましたので、それに合わせて最低利用料金を変更しております。経緯としては以上です。

会 長 迎車料金がどれで発生して発生しないかの確認なんですけれど、その辺はなんか、どうやって確認しましょうか、今の、発生しない時があるんじゃないですかとおっしゃっていましたが。

事務局 現在、市で迎車料金が発生しないというところをご案内しているのは、駅、江南駅、布袋駅、あと江南厚生病院、もう1つ、ヴィアモール、こちらはタクシーの待機所があると伺っておりますので、そちらは迎車料金は発生していません。ですが、そのほかの場所につきましては基本的には全て迎車回送料金がかかるものとして事務を進めています。

会 長 ですから、今の極端な事例で、コンビニ寄って、そこで一度終わったと、またそこにタクシーが残っていても、もう1回乗るときには迎車料金がかかるという、そういうことですね。それが今の決められた場所ではないので、そういう形になるわけですね。それが全体のルールの中でいくとシンプルなルールでやっているという話ですね。そういうことですので、その辺のそのルールというのが難しく、使う人によって、タクシーのドライバーによってルールが変わっちゃ駄目なんですね。やっぱり全てのタクシーが同じルールで、全ての市民が同じルールで動かなきゃいけないということなんですけども、それがたまたま今回、立寄りということが、一般のタクシーならできるようなことを何故できないのかなというところで、いろいろな市役所とか現場とか利用者が混乱し始めたというところなので、やっぱり誰にも分かりやすい同じルールは作らないといけないということなんでしょうね。

もう1つは、いつもここで出ますけれども、皆さんが喜んで使っていただけのシステムにしなきゃいけない、こんなシステム嫌だということになっては困ると、とにかくタクシー事業者さんもこれで、良い話だと、みんなが良い話だというように持っていくのが一番良い話ですからね。そのためにはどういった仕組みをね、変更があるのか知らないのかってそういう議論かなと思いますので、皆さん、いろいろとお知恵を貸していただきたいのですがいかがでしょうか。

委 員 確認なんですけれど、今、前日予約ということになってますけど、前日予約で車が空いてないから断るということは起きていますか。

会 長 要するに、予約の不成立みたいなことなんですけれど、どうでしょうか。はい、お願いします。

事務局 予約の不成立につきましては、件数は把握は正直しておりませんが、タクシー会社さんで、受けられないとなった場合は、いこまいCARは4社ですので、そのどこでもいこまいCARの仕組みを使っていただくことができますので、違うタクシー会社をご利用くださいとご案内をしております。

委 員 そうすると、現在では前日予約でお断りをするということは起きていないということですね。それは、今委員の方が説明した当日予約を引き受けられたら我々利用者にとっても当日予約が一番ベターだと思いますけど、当日予約したけど車が空いていないよと、そうなったら利用者にとっては空

いてないならそれならもう予約はしないわ、ということになりかねないですから、車が今の江南市の状態で、予約したら全て引き受けられる状態に整備している状態ならいいですけどね、その辺はどうでしょうかね。

会 長 分かる方おられますか、委員さんの方から分かれれば。ではお願いしてもいいですか。

委 員 実際、8時半から始まりますので、どうしてもその時間に病院に行きたいというお客様がほとんど、特に、厚生病院に行かれる方がほとんどなので、うちのような小さな会社ですと、朝8時半に5台予約が入ってしまったらもう、ほかの、今までの会社予約を受けているものが全て行けなくなってしまふような状況なので、失礼ですけど、たまにほかの会社さんはいかがですかというお話もさせていただきますし、あとはお時間をちょっとずらしていただいて、8時半からですけど、8時45分とか50分というふうに、下手をすると病院の方のご予約をちょっとずらしていただくという時もたまにございます、実際は。

ただ、極力頑張ってお迎えに行けるようにいこまいCARのご予約の方は完全にお迎えに行けるようにさせていただいております。道の状況で遅れることもあるんですけども。

委 員 我々、利用する立場にしますと、やっぱり前日でも当日でも予約したら間違いなく来てくれるという、そういう頭で予約しますから、それで車がないから駄目ですよと言われたら予約しないわ、というようにだんだん足が遠のいちゃうというケースが出てくると思います。その辺、前日予約で現在は100%予約を引き受けられている状態なのか、その辺もきちんと把握しないとすぐ当日に移行するなんてとても無理な話だと思います。その辺どうですか。

委 員 やはり車にもですね、各社制限台数があるものですから極力お応えはする中で、やっておりますけども、少しその辺は若干幅を持っていたかかないと、全て100%、100か0かみたいな感じになるとなかなか難しい部分も。今、乗務員も不足気味、なかなか車が全部稼働できないという、各社そんなような状況でやっておりますので、極力お応えするには、最善の努力はしております、ただ、100%と言われるとどうなのかなというのは若干あるかと思えます。

委 員 今、私も言ったんですけど、利用する立場においては、前日で明日行きたいとなれば、前もって100%行っていたらという事で予約をする人が多いと思いますね。だからそういう状態を、いかに前日予約で100%引き受けられる状態にしてから当日予約の方に持っていかないと、前日予約で行ってくれなくて当日予約で行ってくれるとか、そんなことはあり得ないわけですよ。

だからその辺の整備もきちんとしていかないと、いこまいCAR利用者にとっては増えていかないんじゃないかなと。たまに断られた人はまた断られるんじゃないかと。今まで順序良く行っていた人はそんなこと思わないかもしれませんが、そういう状態になると今言ったようにいこまいCARの利用が増えていかない要因の1つになってくるんじゃないかなと思

います。

会 長 はい、では委員の方。

委 員 今、委員が言われたことについてですが、江南市ほど潤沢にタクシーのある町はありませんよ。それでいこまいC A Rの予約が取れないということは、それだけ利用者が多いということなんですよ。僕はいろいろな所でタクシーに乗りますけど、例えば、電車乗り越して犬山に行ったらタクシーなんてつかまりませんよ、犬山、鶯沼なんてのは。岩倉でもこんなに潤沢にタクシーありません。江南市は、いこまいC A Rのおかげでタクシーは非常に潤沢に運行してます。そこで 100%できないっていうのは運転手さんたちの目一杯のお断りだと思いますので、それについては少しは仕方ないと思いますが。

本題についてですが、立寄り利用については積極的にやっていただいていると思います。我々がいろいろなところでお話を聞きますと、料金の問題ですよね。例えば、近いところなら 500 円でも済みますが、遠いところ、般若の方とかあっちの方だと、立寄りというか相乗りがしやすくなるのではないかと思っています。そういう意味ではいろいろな要望の中で、先程出ました、当日の予約と相乗りの運用は非常に希望が多かったと思っていますので、それについては積極的に進めていただいていると思います。

元々、江南市は公共交通がないところはいこまいC A Rしかありませんので、そういう意味では使いやすくしていくことについては結構だと思っています。よろしくお願いします。

会 長 ありがとうございます。今、事務局言いかけたけど何かありますか。

事務局 先程の委員の話なんですけど、確かに利用者さんから、実際事業者さんから話があったように、なかなか、タクシーの車両がその時間帯集中することがあって、1社ではお応えできない状態ではありますが、今、江南市の状況としてはタクシー会社さん4社で受けていただいているということ非常に強みとしておりますので、そういったところを積極的にご案内していけたらと考えております。以上です。

会 長 今、話がいくつか分かれてしましまして、当初は立寄り利用という話が出ましたけども、そもそも前日利用、当日利用というそもそも論が入ってきまして、究極の目的としては利用したい人はいろいろなふうにご利用したい。だけど車を用意する方は限りがあるという、いつもこれは出てくる話なんでね、そこでいろいろな意見が出ました。

で、前日利用というのは、私の方でまとめますと、会社としては努力してはありますが、努力の中には、利用者さんの方で少し時間をずらしてもらって、そういうお互いに調整しながらという、そういうのも合わせてのギリギリの線で、今動いているのかなというのを感じましたので、共に両方の努力がいるのかなと、いろいろな意味です、ですけど、先程の議題の1のように、都市内の交通の実態というものを把握をしておこうとすると、少しだけ今までの議論ですと曖昧なところがありましたので、もう少し分かるような情報が集められるといいのかなとは感じましたので、そういうのは、なかなか日々の業務で忙しいところに新たに挑戦するかという難し

いところがあるかもしれませんが、何らかの参考資料という形でもう少し出てくると、より議論が発展するかなと思いましたが、そういうことで前日利用のところ辺りの充実っていうのを図っていただきたいというぐらいに収めたいなと思いますけども。

問題なのは、今日の立寄り利用という話ですので、いろいろな意味で先程の相乗りというのも含めまして、たくさんの方が1台の車に、1人で1台の車を使っていたら確かにもったいないので、いろいろな人がどんどん乗り込んでいって使っていくようなやり方が今の立寄りに近い形であれば、それも考えてやっていくというそういう手もあるのかなという。乗合と立寄りが、何が一緒に何が違うかちょっと難しいところはあるんですけどもね、その辺は整理していくといいのかなと感じましたけども、何か皆さんの方でいろいろな知恵をお願いしたいですけど、いかがでしょうか。

委 員 今回、立寄り利用ということで、想定されるのは、先程の前日まで100%予約ができるかどうかということにもちょっとかかってくるんですけども、1つのタクシーの予約というかですね、1件当たりのタクシーに対して、今度立寄り箇所が増えるということで、1台の拘束時間というのが当然増えてきます。そうすると、多分後に予約されている方ですね、時間が読めなくなってくる、これは立寄り時間が何分、5分で見込んでるのか10分で見込んでるのか、実際30分待たせることもあるかもしれない、そういったことで、ルール作りってすごく大切になってくると思います。この辺り、タクシー会社さんとですね、きちんと話をさせていただいて、ルール作りの参考としてください、というのが1点。

あともう1つがですね、今まで往路復路という形で2つの予約をされていたのが、極端に言えば立寄りポイントを目的地にして、自宅発、立寄り、自宅着という1つの予約でできるようになるということだと思っておりますけれども、そうすると迎車料金と初乗料金というのが当然存在しなくなるものですから、利用者にとっては支払額が安く済むというメリットではあるんですけども、タクシー会社さんとする収入減に繋がってくると思います。この辺りも市内の4社のタクシー会社さんからきちんとそれぞれヒアリングをしていただいておりますね、どういう制度設計をされていくか話し合ってくださいようお願いいたします。

会 長 ありがとうございます。今の2番目の話はこういうことなんです、資料の3の右の立寄りした場合の時の立寄り先が、実は立寄り先じゃなくって本当の目的地だったと、だけど、短時間で済む目的なんでそのまま家に帰るというパターンが出てこないかなということなんです。今までだったら、行って1回、帰って1回だったのが1回でみんな終わってしまうという、そういうことができるのかなという、それがいいのか悪いのかいろいろな議論があるんでしょうねということだと思います。そういうのもあり得るということですね。いろいろなケースを考えるということですね。要するに、何か予約しといて受取りに行くだけだというね。例えば、薬の予約をしておいて受取りに行くだけだと、だったらそういうこともできますからね、短時間ならね。だからあり得るだろうなと私もそう思いました。この

立寄りということを考えますとね、だからいろいろなケースがあるなど。もう1つ私が思ったのは、立寄りで、今の待機料金ですか、1分35秒90円というのがね、どれくらいまで長くなったらその辺の負担感が、いろいろな意味の負担感ですね、利用者の負担感もありますし、半分は市が出すといったら市の負担感もあるし、さっき言ったように2つに分けると迎車料金が要りますけども分けないと迎車料金は出ないんだけど、実際には待たせた方が割高になってしまうと、切った方がいいという、そういうケースもあるのかなとか、いろいろな待機時間の長さによってもいろいろなケースが出てきそうだなと思いましたが、そのいろいろなシミュレーションもやってみて、じゃあどういうルールだったらどうなんだという話ですね、それをまた整理する必要あるでしょうねと思いました。何か皆さんご意見いかがでしょうか。

委員 先程の切る切らない、待機するについて、例えばですね、年金をおろしに行くだけだと、銀行でちょっと運転手さん待っててと、今までですと切っていました、帰りあるんですけど本来は別の予約なんですよね。行きの予約と帰りの予約は、実際うちは多分帰りの迎車料金は取ってないんですよ。例えば、行きに600円プラス120円、で、帰りは600円だと。要するに、420円と300円で720円だと。これ、でも近い方だと通常料金と変わらないんですよ。行って、すぐ帰って、戻って720円で済む方も結構見えるんです。だからさっき言われたように、変わらないという方と得するという方と大幅に出るといふ方と、非常に分けるのは難しいです。我々も分からないです。

ちょっとたばこ買って来るだけだからって言って、トイレ寄られてたばこ吸って出られてくる方もみえるんですよ。そうすると今までの方式ですと1回そこで切っちゃってます。運転手はただ単に待っているだけです。で、じゃあ帰るわって言ってさっきと同じように720円いただきましたというのと、その間、もしメーターを倒した状態ですと、多分上回ると思います。ほとんどのケースが上回るケースの方が多様な気がしますね。2分以内でって言う方に限って5分、6分かかりますんで大概の方がそうです。薬を取りに行くからって言われても3番目ですごく混んでたとか。だから。1番当初に言われたのが、いこまいCARで市に請求をあげたのが4,500円だと。で、市から即、電話がかかってきました。江南市内を走って4,000円出ることはないだろうと。おかしいじゃないかと。で、実際運転手に聞いたら、4人乗ってみえて、旅行帰りの女性。1人まず高屋で降ろして、次、般若で降ろして、その次が村久野で降ろして、その次、宮田で降ろしたと、4,000円いっちゃいます。ですけど、市が考えてみえるのは直線なんですよね。当然、立寄りは駄目ですから。で、市から注意を受けたのは、1回1回切ってください。ここはここの予約、こっちからこっちは次の予約、こっちからこっちは次の予約、こっちは次の予約。これは当然、流しで行くよりは遥かに高くなります。4,000円で済まないです。ですけど、我々は市からそういうふうに言われたんなら仕方がないや、こういうふうにしましょうよ、直線、直線、直線。だから、それがなくなる

となると、費用を抑えるってことにもならないし、利用者さんの負担が減るのか増えるのかは利用者さんの使い方次第だと思います。現状言えるのはそれだけです。

会 長 ありがとうございます。いろいろなパターンがあるなっていう話で、本当にこれ、いろいろなケースを考えないとメリット、デメリット簡単にはまとまらないなというのが感じました。じゃあそういう仕組みを、市としては多分、逆に言うと複雑だったから今までは切った方が単純だと。その方がいろいろな人に説明しやすいし、トラブルも少ないだろうなというところでやってきたということなんでしょうね。別に市がサボっているわけじゃなくてね。こういうこともあるんじゃないかなと言って、そうやって議会で質問受けたかもしれないけど、サボっているわけじゃなくて、ちゃんと考えて切ってきたというのが1つの事務局としての立場だったかなというのがありますけどね。皆さんからご意見いただいて、そうすると何が宿題になるのかなって感じですが。では、お願いします。

委 員 運送法上から考えますと、立寄りというのはですね、別に違法でも何でもなくて普通のタクシーは普通にやってらっしゃる行為ですので、特段問題はないのかなと、ただ、先程来、皆様方からご意見があった通り、料金が非常に複雑だということと、あと、このいこまいCARという制度そのものが市の方がいくらかお金を出しているの、そこら辺で問題が複雑になっているのかなという部分もあります。

ただ、1つ言えるのは、立寄りで通常、コンビニとかスーパーに寄って、30分も1時間も待ってれば、それは待機料金というのとはかかると思いますが、その、相乗りをするために、誰々さんのところに行って、家の前で誰々さん待っているのですと乗せて、次誰々さんのところに乗って、誰々さんをすつと乗せて、というのであれば当然待機料金というのとはかからないですし、1台の車で複数人乗れるわけですから、要は、効率的な輸送という面でも相乗りをしていただく分には決して悪いことではないのかなと思います。

ですので、その辺をですね、先程必ずしも高いケースだけではないよ、裏を返すと高いケースも発生してきますよというのがあるので、その辺はもしやるのであれば1つ整理した方が市にとってもそうですし、利用者にとってもそうですし、メリット、デメリットがあるので、しっかりその辺は整理をしてからやっていただく方がいいのではないかなと思います。

会 長 ありがとうございます。いろいろと宿題が出たかなと思います。

いろいろな場合を整理して比較して、比較というのもお金の比較もありますし、利用の仕方の比較もありますし、どうやったら1台の車でたくさんの人を運べるかという、そういう比較もあるでしょうね。いろいろな面での比較をしていくことになるかなと思いますので、ちょっとその作業を継続的にやっていただくと課題が見えてくるかなと思いますので、作業は大変ですが、そこは多分いろいろとタクシー会社さんに聞くなりね、実態をね、知ることも大事でありますから。いろいろ情報を集めてやっていくということだと思います。タクシー会社さんに聞くのはいこまいCAR

以外の普通のタクシーだったらどうですかみたいな話ですね。多分、その議会で質問されたのも普通のタクシーとの比較で出てきている話でしょうからね。それもいろいろと考えて調べていただけたらなと思っております。

あと、いかがでしょうか。何か、もっとこういうことを検討したらいいかなというのが、検討事項だけでも指摘していただければ。よろしいでしょうか。

では、この件は継続的に課題について整理していくことでよろしくお願ひします。ということで、一応協議事項ですけれども、そういうことで皆さんご了解いただく、ということでよろしいですね。ありがとうございます。ではそのように事務局側を中心にして、進めていただくと同時に関係の方々にもいろいろと情報提供をよろしくお願ひいたします。どうもありがとうございます。

○その他

会 長 以上で予定していました協議事項は全て終わりましたので、次第4のその他に進めさせていただきます。事務局から何かありましたらお願ひいたします。

事務局 その他の説明に関しましては、今回評価についてなんですが、先程評価の部分でもご説明させていただきましたが、皆様に、こういった形で一旦ご承認いただいたというところで、またいろいろなところに報告していくのと、あと、ホームページでこういった評価を今回はさせていただきますというご報告をホームページ等で進めてまいりますので、よろしくお願ひいたします。

また、いこまいCARの立寄り利用につきましては、本日たくさんご意見をいただきましたので、事務局で整理して、良く検討してから、機会を見て、またご相談させていただければと思っております。以上です。

会 長 ありがとうございます。今の件について、では、お願ひします。
委 員 報告をホームページにあげられるんですが、これは資料1-1と1-2と資料2があると思うのですが、これ、資料1-1が自己評価概要全体というタイトルになっています。で、資料の2というのがこれの元データで利用状況というタイトルですけど、普通、自己評価といった時には全体のものがあるってその自己評価の概要をまとめたものがこの資料に出てくると思うのですが、何か整合性だけ少し考えた方がいいんじゃないかなと思うんですが。

会 長 資料の1-1、1-2、2の何故こんなものを作ったかということと、その資料の関係性ですね。タイトルがあくまでも中部様式という第三者評価にかけるときのものでありますから。別にこれ、あった方がいいのかな、一応あるとしても、何故これがね、ここで活用したかという、そういう解説があって、これを見せるんでしょうね。

まだ、必ずしも初年度なので完璧なものではできてませんとはっきりそこも言っておかないといけないなと思います。そういった注意書きを付けて出

すという形になるかなと思いますけどいかがでしょうか。そういうことでよろしいでしょうか。また、その注意書きのところは会長の方でチェックいたしますので、会長一任という形でチェックさせてください。よろしくをお願いします。

委 員 この会議に直接関係ないかもしれませんが、昨日の夕刻のテレビと、今日の中日新聞の朝刊に乗合送迎チョイソコというのが豊明市で今日スタートしたと、年内に実証実験をするという記事が出てました。江南市はいこまいC A Rが充実しているので、そこまでどうかなと思いますけど、やっぱり外出しにくい高齢者を対象にして豊明市がアイシン精機とスギ薬局の協力を得て、年内に実施して、効果が得られれば来年早々実施するという記事が出てました。

江南市も何らかの形で一度豊明市の視察に行って、状況を確認、今後のためにね、参考にされたらどうかなと思います、一言発言させてもらいました。

会 長 事務局は何かご存知ですか。その辺の豊明の話。

事務局 不勉強で申し訳ないですが、ちょっと情報を掴んでいないところでありますので、今、ご意見いただきましたので、調べてお話し等伺えればと思います。

委 員 今日の中日新聞に出ていますので、是非読んで参考にして、今後の江南市に役立ててください。

委 員 さすがに注目が大きいなと思って。まさかこの会議でそのチョイソコ豊明が出てくるかなとは予想しておりませんでした。一部業界紙ではもっと前から出ていたんですが、チョイソコ豊明というものは、今、豊明市で、これはまだ実証実験という実験の段階ではあるんですが、今回始まったのは、いわゆる営業用の青ナンバーではなくて自家用の白ナンバーの車を使って、ただし無料で、運送法に抵触しない範囲で実験的に行うというものが今回、昨日から始まったわけなんですが、特徴的なのが、アイシン精機とスギ薬局が関わっておりまして、スギ薬局をはじめとした地域のそういうお店とか企業なんかがスポンサーになりまして、お金を出しましてそのお金を出した分だけ、将来的には青ナンバーの事業用の営業車で営業を始めるということが前提になっているんです。

当然営業用の車でやるので運賃もそれなりの運賃になるんですが、先程申し上げた、スポンサーからお金をいくらもらうことによって利用者からの運賃をいくらかでも安くしようと。結果、普段なかなかお出かけしづらい高齢者の方なんかが比較的容易にお出かけできるようにしていきましようというような取り組みを、今、まさしくやっているところで、今からいろいろやってみて、どういうものかというのをいろいろやっているところでございます。これ、結果的にどうなるかというのは、まだやってみないとちょっと分からないんですが、少なくともそういう動き、これもそうですし、これに似たような動きも全国各地でいろいろ行っておりますので、そういうものも勉強といういろいろな取り込んでやっていただくというのも1つの手かなと思います。以上です。

会 長 ありがとうございます。いろいろな事例ね、全国にありますし、愛知県の

中でも結構出てきております。県内でもですね。だからいろいろと調べていただけるといいし、もちろんその逆にね、こちらのいこまいCARも全国に注目されているので、すごく視察の方が多いいという話もありますから、それでいろいろな地域の方と遠くの方々とも話し合っ、いいところはどんどん盗んでいって、この地域が良くなるように、いろいろな所でアンテナ張っていきなと思っ、私もいろいろやっ、紹介したいなと思っ、どうもありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

委員 質問なんですけど、いこまいCAR、私、初めてタクシー会社に電話した時に、タクシー会社ってすごく電話がかけづらなんですけども、資料を見ると利用している人がすごく多くて驚いたんですが、相乗りアプリの開発と書いてあったんですけど、逆にネット予約とかQRコードとかっていう方はないんですか。

会長 電話以外の予約方法はどうか、というのが出ましたが、これもいろいろな地域でやられていますけども、じゃあお願いします。

委員 ほかの会社さんだと分かりませんが、こちらの事業者ですと相乗りアプリというわけではありませんがアプリでタクシーを呼ぶというものは既にありまして、できるようになっています。

委員 じゃあその事業者さんにお電話します。

会長 それはいこまいCARでもいいんですか。駄目ですよ、一般のタクシーですよ。

委員 予定もないですか、すぐできると思うんですけど。

委員 資産があるところだったらできると思います。中小の事業者ではちょっと難しいかなというところですよ。それよりもお年寄りの方が携帯を使うということに、ちょっと難しいところがあると。

委員 お年寄りの方はお電話していただいて、若い人がゆくゆく認知度を高めるためにそういうツールを利用するのもありかなと思うんですけども。

委員 将来的にはあると思いますけど、今のところはお年寄りがメインなので、どうしてもほとんどいこまいCAR使われている方がお年寄りの方が多いので、お若い方は下手をすると季節がいいと自転車で行かれたりとか、あとお車で、自家用車で行かれたりという方が多いのでどうしても利用者の、ちょっと割合は分からないんですけど、うちはほとんどの方がおじいちゃまおばあちゃまばかりなので、そういう方が携帯を開くというところまでいくのかどうかというところはちょっと難しいような気がします。

会長 これからの重要な課題だと思いますのでありがとうございます。ほか、よろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。それでは、意見も尽きたようですのでこれを持ちまして、本日の江南市地域公共交通会議を閉会させていただきます。慎重なご審議を賜り、誠にありがとうございました。

○閉会（午後3時50分）